

木曾川 河川敷

自然を守る

散策路を整備

ネムノキに樹名板を付ける

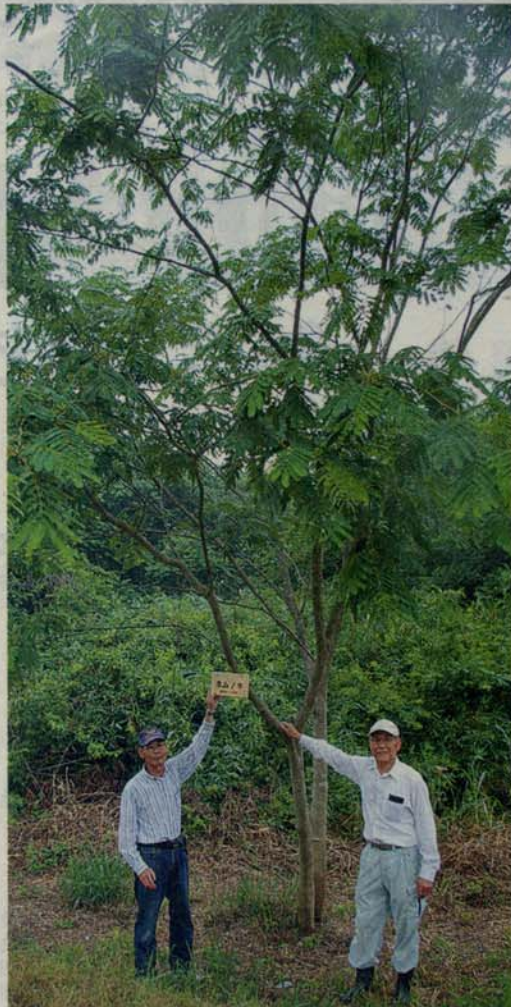
江南市の鹿子島グラウンド・ゴルフクラブ（後藤静雄会長）とNPO法人江南フローズ（藤田康雄理事長）はこのほど、木曾川左岸河川敷の自然保護を目的に、鹿子島地区内の治水の遺構「忠平猿尾」周辺に約20本自生するネムノキに樹名板を設置しました。ネムノキの花は7月初旬が見ごろ。「多くの人にネムノキの花を見てもらい、『忠平猿尾』のことを知ってもらいたい」と話しています。

鹿子島GGクラブ 江南フローズ

同クラブは、江南市地を進めているもので、手域まちづくり補助金採択 作りで樹名板を作成し、事業として同周辺の自然 取り付け作業には鹿子島 保護と散策路整備の事業 子供会、(社)ガールスカウ

ト日本連盟愛知県第11団の隊員も協力しました。

「昔は、毎年洪水の被害に遭って貧しい生活を強いられていた鹿子島地区。自分たちの生活を守ろうと、猿尾の築堤を始



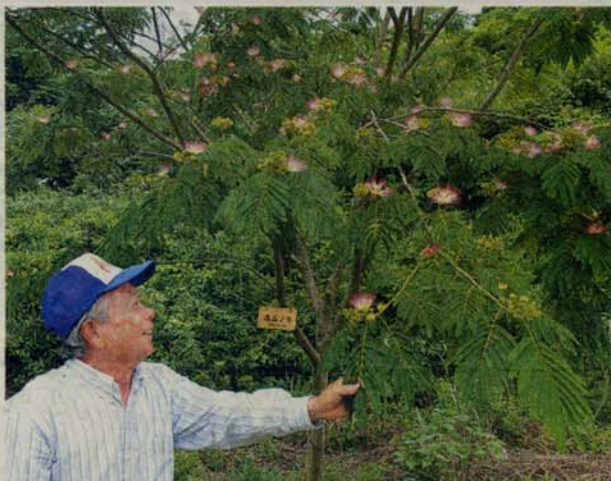
「ネムノキ」の樹名板を設置した鹿子島GGクラブの尾関日吉副会長（左）と事務局の尾関夷三郎さん（6月15日）

めた忠平親子の民話を伝え続け、その猿尾を残していきたい」と、同クラブ事務局の尾関夷三郎さんは話し、その思いが活動につながったと言います。

会員それぞれが草刈り道具を持参しての作業で、副会長の尾関日吉さんは「草を刈って人が通れるように整備した後も、定期的に草刈り作業が必要」と、継続性の求められる活動。

「まだまだ老け込むのは早い。年輪のある老人パワーで、木々に樹名板を取り付け散策路の整備を継続していきますよ」と、郷土を大切に思う気持ちが整備への原動力となっているようです。

約20本が自生 ネムノキが開花



後藤静雄会長と咲き始めたネムノキ（6月25日）

「つるが巻き付いてし

ネムノキ（合歓木）は6月下旬から盛夏にかけて咲く、繊細で美しい花。ネムノキの名前の由来は夕方になると葉が合わさって閉じてしまう様を眠ることに例えたもの。

まつていて、昨年は花の咲き具合が良くなかったけれど、こしはつぼみがたくさん付いたね」と、花が咲き始めたネムノキの前に、後藤会長は目を細めます。

「みんな協力的だね。徐々に整備を進めて、散策しながらネムノキや自然を楽しんでもらえるようにしたい」と、仲間と楽しみながら作業を進めていきます。

ネムノキの群生は、すいとびあ江南から遊歩道・サイクリングロードをフローズパーク江南方面に500mほど下った辺りで見ることが出来ます。